射水市名誉市民

内藤 友明

（ないとう ともあき）

Naito Tomoaki

生年月日～没年月日

明治27年12月8日 生
～ 平成4年3月14日 没

決定年月日

昭和56年9月11日議決

主な経歴

新湊町議会議員
衆議院議員
新湊市長

功 績

内藤友明は、射水郡西条村長江(現高岡市)に生まれ、東京帝国大学(現東京大学)農科大学農学実科を卒業後、昭和7年38歳のとき新湊町議会議員に当選して政治家としてのキャリアをスタートさせました。昭和22年以降衆議院議員に5回連続で当選し、農林政務次官をはじめ数々の要職を歴任します。

また、衆議院議員在職中の昭和30年、日本海対岸諸国との貿易拡大を予見し、当時の運輸大臣に放生津潟を基軸とした新港の建設を具申、「野に、山に、海に」の公約を掲げた吉田富山県知事の登場とあいまって、富山新港建設計画は一気に現実味を帯びはじめます。

昭和36年には新港建設工事が起工、翌3年からは用地買収が開始されたものの、農地の評価額をめぐって買収は難航、内藤はその価格を決定する委員会の委員としてただ一人評価額の低さに異議を唱え、離農対策を含めた総合的な補償対策を強く要望しました。

しかしながら用地買収は進まず、ついに内藤は新港建設に係る様々な問題を自ら解決しようと、新湊市長選挙に立候補する決意を固めます。

昭和42年7月、72歳で第6代新湊市長に就任した内藤は、用地買収の対象となる農家に対し、富山新港の造成が日本の将来のためにどうしても成し遂げなければならない事業であると説得を続け、ついに全地主の了承を得ました。その後、港口の切断など様々な困難を乗り越えて昭和43年4月に開港した富山新港は、今や環日本海貿易の拠点としての地位を揺るぎないものにしています。

「あたらしく港ひらきてこの国の経済史ここに書きかえむとす」(※)

歌人市長としても知られた内藤が、富山新港の開港を記念して詠んだ歌です。裏日本と呼ばれ続けた富山県から新しい時代を切り拓こうとする内藤の強い情熱が伝わってきます。

※ 富山新港西埠頭の一角に建つ「富山新港開港記念碑」に刻まれている。

※ 関連施設　内藤友明銅像　内藤友明の功績を永く後世に伝えるため、昭和62年、内藤友明顕彰会が高周波文化ホール(新湊中央文化会館)敷地内に建立。(『新湊市史』、『富山新港史』(新湊市)、『富山大百科事典』(北日本新聞社)から引用)